

## 貸借対照表

(2019年3月31日現在)

旭化成基礎システム株式会社

科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
( 資 産 の 部 )		( 負 債 の 部 )	( 87,040,078 )
流 動 資 産	372,059,567	流 動 負 債	87,040,078
売 掛 金	94,463,680	買 掛 金	35,304,077
仕 掛 品	9,886,370	未 払 金	12,278,135
前 払 費 用	686,302	未 払 費 用	31,787,799
短 期 貸 付 金	267,023,215	前 受 金	5,689,667
		未払住民税及び事業税	1,980,400
固 定 資 産	4,863,326		
有 形 固 定 資 産	196,001	( 純 資 産 の 部 )	( 289,882,815 )
工 具 、 器 具 及 び 備 品	196,001	株 主 資 本	289,882,815
無 形 固 定 資 産	918,050	資 本 金	200,000,000
電 話 加 入 権	918,050	利 益 剰 余 金	89,882,815
投 資 其 他 の 資 産	3,749,275	そ の 他 利 益 剰 余 金	89,882,815
繰 延 税 金 資 産	2,909,275	繰 越 利 益 剰 余 金	89,882,815
差 入 保 証 金	840,000		
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	376,922,893
	376,922,893		

## 個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 棚卸資産

製	品	……	個別原価法による低価法 (貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)
仕掛	品	……	個別原価法による低価法 (貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)
貯蔵	品	……	総平均法による低価法 (貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

### 2. 固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産(リース資産を除く) ……定額法
- (2) 無形固定資産(リース資産を除く)  
……ソフトウェア(自社利用)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法
- (3) リース資産 ……所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法  
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2008年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

### 3. 引当金の計上基準

賞与引当金 ……従業員に対し支給する賞与に充てるため、支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上している。

### 4. 消費税等の会計処理方法

消費税等の会計処理は、税抜方式によっている。

### 5. 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用している。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に関する注記)

#### 有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法の変更

従来、当社は、有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法について、主として定率法を採用していたが、当事業年度より定額法に変更している。この変更は、当社の親会社である旭化成株式会社が有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法に変更することを契機として、有形固定資産の償却方法の検討を行った結果、当社の有形固定資産は、長期的かつ安定的に稼働し、当社の安定的な収益の獲得に貢献することが見込まれることから、有形固定資産の減価償却方法として定額法を採用することが、有形固定資産の使用実態をより適切に反映する費用配分方法となるとともに、当社のより適切な業績管理に資すると判断したことによるものである。

この変更により、従来の方法によった場合に比べて、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に影響はない。

(表示方法の変更に関する注記)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う繰延税金資産・負債の表示方法の変更「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号)を当事業年度より適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示している。

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当該事業年度の末日における発行済株式の総数  
普通株式 4,000株